

各位

2020年6月4日  
神奈川県保険医協会

緊急実施「新型コロナウイルス感染拡大に伴うアンケート（第2弾）＜速報＞

**「宣言」以降の4月・5月の受診減深刻****小児科、耳鼻科で収入半減 感染対策費用も重荷に**

県下の開業医・開業歯科医師約6,400名で組織する神奈川県保険医協会は、4月に実施した表記アンケートの第2弾を実施。6月2日までの回答を集計し中間集計を行いましたので概要をお知らせします。

実施期間：5月29日～6月4日／送付方法及び回答方法：FAX

送付対象：FAX登録があり到達した4,972医療機関（医科3,154名、歯科1,818名）

回答数：667（医科506名、歯科161名）／回答率：13.4%

※少数以下は四捨五入のため一部合計が100%にならない部分がある。

**開業形態**

医科（うち内科が38%）			歯科		
診療所	485	96%	診療所	150	93%
病院	8	2%	病院	2	1%
◆無回答	13	3%	未回答	9	6%

**Q1. 4月・5月の診療状況（前年同月と比較して）。****医科「患者減った」は90%超に 減収3月より悪化 「減収3割超」が4割も**

◇外来患者数について（前年同月比）※3月の数字は前回調査より

- ◆3月の外来患者数：①増えた1% ②変わらない7% ③減った84% ④無回答4%
- ◆4月の外来患者数：①増えた1% ②変わらない7% ③減った91% ④無回答1%
- ◆5月の外来患者数：①増えた1% ②変わらない5% ③減った91% ④無回答2%

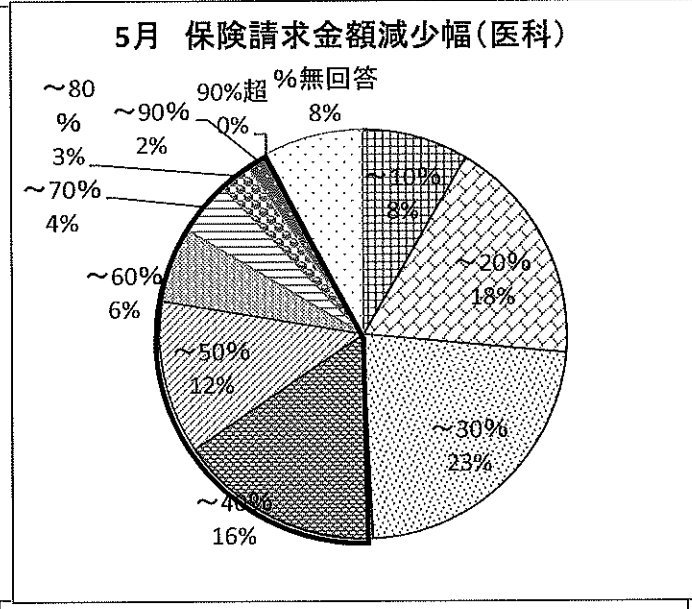
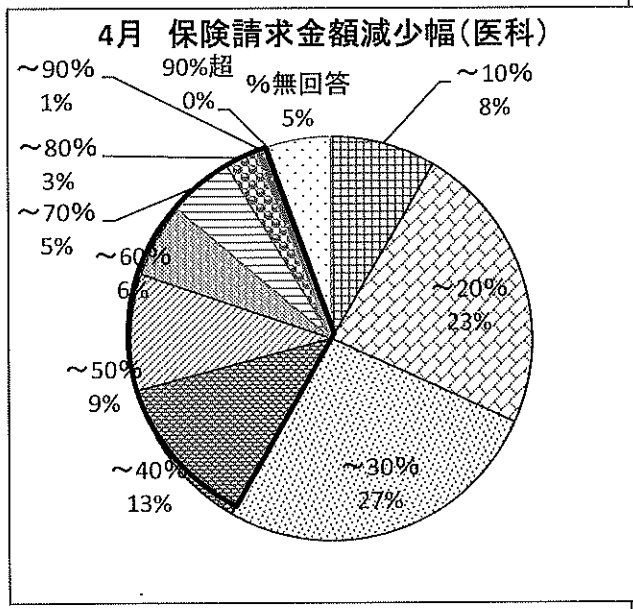
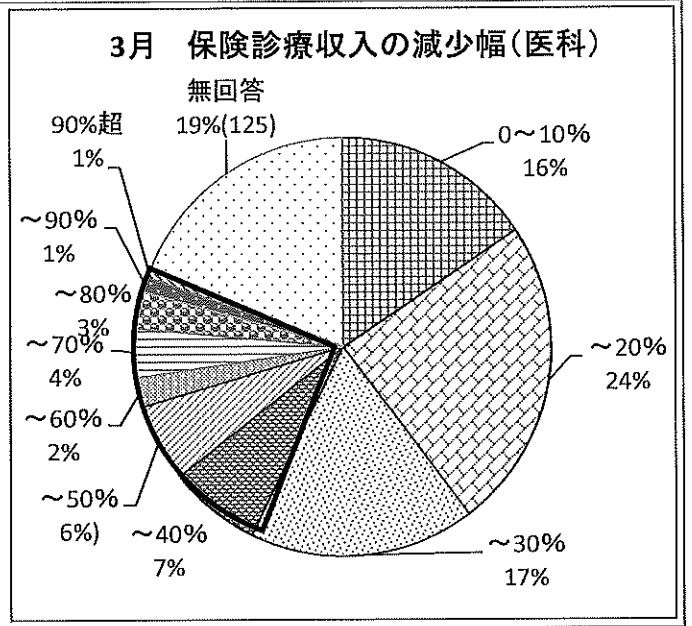
◆医科で「外来患者数が減少した」（前年同月比）と答えたところは、4月、5月ともに90%超に上った。緊急事態宣言が出される前の3月と比較しその比率は上がっている。減少幅は全診療科の平均値で4月、5月ともに▲35%減。診療科別にみると小児科、耳鼻科での減少幅が際立って大きく、4月の小児科は同▲46%、5月は同▲50%と患者は半減、4月の耳鼻科は同▲47%、5月は同▲46%となっている。小児科は受診抑制で乳児の定期予防接種の未接種事例が増えていることも懸念される。

◇保険診療請求額について（前年同月比）※同上

- ◆3月の保険診療請求額：①増えた1% ②変わらない12% ③減った82% ④無回答6%
- ◆4月の保険診療請求額：①増えた2% ②変わらない6% ③減った87% ④無回答5%
- ◆5月の保険診療請求額：①増えた2% ②変わらない6% ③減った87% ④無回答6%

**医科：減収幅の推移**

◆医科の保険診療請求額（医業収入の大部分を占める）も同様、「減少した」と答えたところが3月より悪化し9割近くになっている。減少幅（前年同月比）は全診療科の平均値で4月が▲33%、5月が▲35%で最頻値はいずれも▲30%。小児科の平均値は4月が▲48%、5月が▲50%、耳鼻科平均値も同▲47%、同▲46%と特に落ち込みが大きい。3月と比較し全体の減収幅は上昇しており、減収幅が30%を超える医療機関が3月時点では24%だったのが、4月は37%、5月は43%にも上り、経営悪化が深刻だ（グラフ太囲み部分）。



**歯科 「患者減った」は94%に 5月減収幅の最頻値は▲50%と危機的状況**

◇外来患者数について（前年同月比）※3月の数字は前回調査より

- ◆3月の外来患者数：①増えた5% ②変わらない20% ③減った72% ④無回答 3%
- ◆4月の外来患者数：①増えた0% ②変わらない4% ③減った94% ④無回答 2.5%
- ◆5月の外来患者数：①増えた0% ②変わらない3% ③減った94% ④無回答 3%

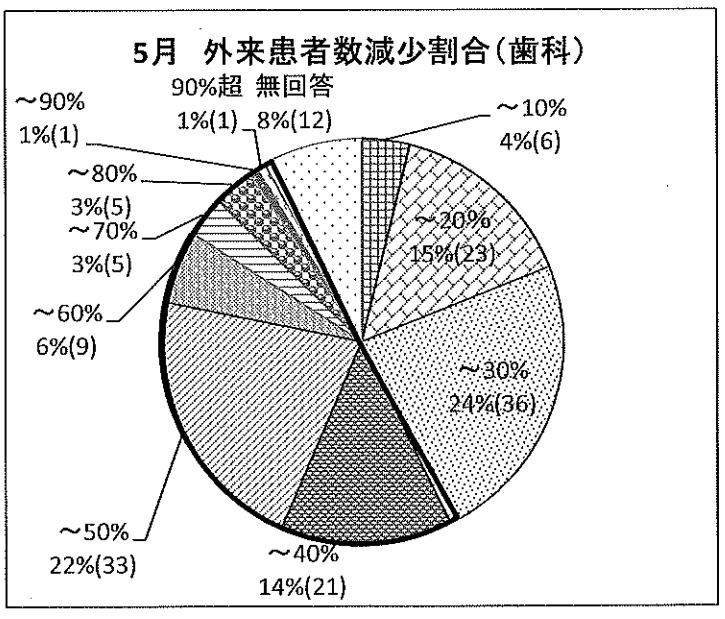
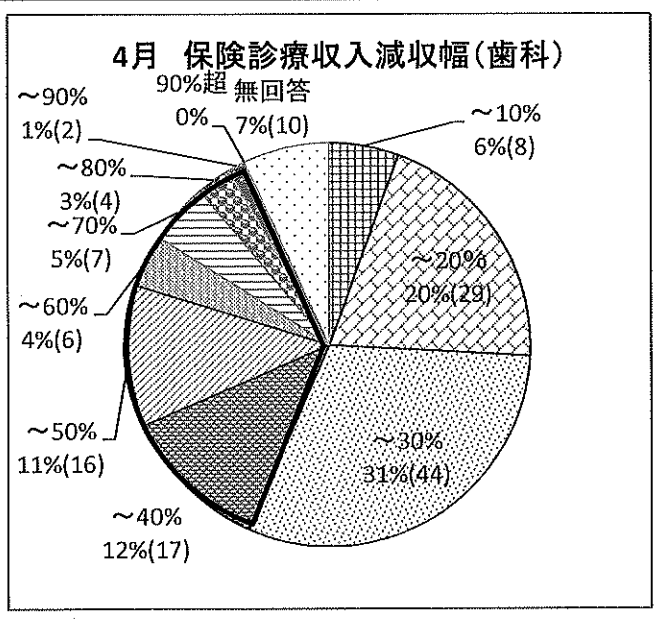
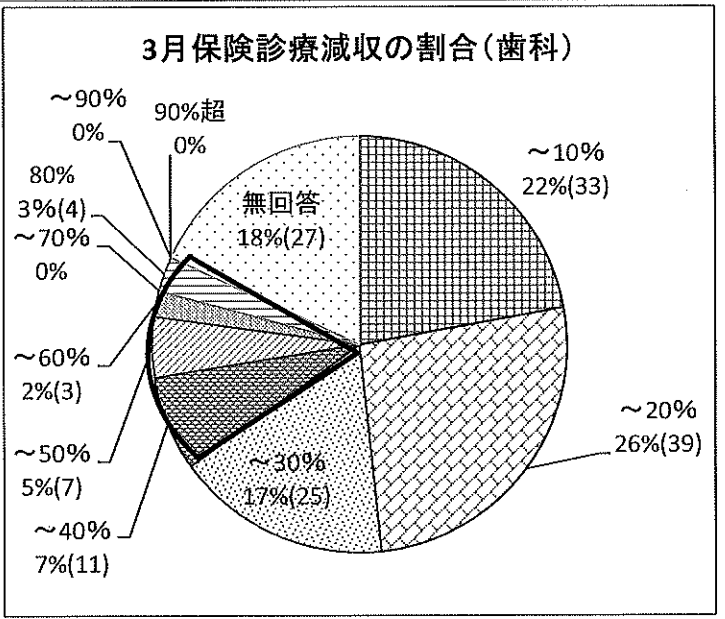
◆患者減を訴える歯科医療機関は、3月の72%から4月に入り94%へと激増した。2月から報道等による「歯科は感染リスクが高い」との風評の影響もあったが、緊急性のない歯科治療の延期を求める趣旨の通知発出（4月6日付厚労省）を機にさらに受診抑制が進んだ。

◇保険診療請求額について（前年同月比）※同上

- ◆ 3月の保険診療請求額：①増えた6% ②変わらない20% ③減った69% ④無回答 5%
- ◆ 4月の保険診療請求額：①増えた3% ②変わらない4% ③減った89% ④無回答 4%
- ◆ 5月の保険診療請求額：①増えた2% ②変わらない4% ③減った90% ④無回答 4%

**歯科：減収幅の推移**

◆保険診療請求額が減ったと答えた歯科医療機関は、外来患者減と同様、4、5月とも9割に上った。医科では通院患者が減っても電話処方などがあり、来院患者と比較して少ないながらも収入がまだあるが、歯科は来院患者数そのまま収入に直結する。医科と比較すると、減収幅が30%を超える歯科医療機関が3月は17%だったのが、4月は50%、5月は51%と実に半数に上り、減収幅の最頻値は▲50%だった。減収幅が50%を超えるところもそれぞれ14%、13%あり、医科と比較し経営悪化がより深刻だ。



## Q2.コロナ感染を疑う患者への対応（医科のみ）

### ◇コロナ疑いの患者の来院はあったか

①あった 53% ②なかった 42% ③その他回答 4% ④無回答 1%

◆医科では、半分以上の医療機関がコロナを疑う患者の来院があったとしている。もちろん診療科によるばらつきはあり、内科だけでみると71%が「あった」と回答している（整形外科同18%、精神科同5%）。

### ◇コロナ疑いの患者への対応（複数回答）①「あった」と答えた n = 269

別室待機	34.2%
PPE 着用して診察	30.2%
症状緩和の処方をした	28.1%
診察し接触者外来へ連絡	23.5%
対面診察せず接触者外来へ紹介	10.7%
その他	11.1%

◆疑いのある患者への対応では「別室待機」の対応をした医療機関が34%と最も多く、次いで多かったのは「PPE（個人用防護具）を着用して診察」で3割。症状緩和の処方を行い何とか対応するところも。ただ、感染防御のための物資がない、動線を分けるなどのスペースに限りがある等の事情からか、対面診察をせず帰国者・接触者外来へ紹介をしたという声も一定数ある。

## Q2.何らかの診療縮小を行ったか（歯科のみ）※複数回答

歯科 診療縮小をした歯科医院は84% 「診療時間短縮」は6割に

一定期間休診した	9%
休診（曜）日を増やした	20%
診療時間を短縮した	58%
スタッフの出勤を減らした	49%
感染拡大前と変わらず診療	16%
その他	14%

◆「感染拡大前と変わらず診療」を除くと、8割超の歯科医療機関が何らかの診療縮小を行ったことになる。最も多かったのは、診療時間の短縮で、6割の歯科医療機関が行っていた。次いで多かったのはスタッフの出勤減。休診したところは9%あり、日数の内訳をみる「～7日間」が27%、「7日超14日間」が40%と最も多く、中には40日を超えて休診しているところもあった。またもともと予約診療が多い歯科では、「患者のアポイントを減らした」との回答が「その他」に多く寄せられた。待合室で患者が重ならないようにという配慮の意味もある。

### ◇診療縮小を行った理由※複数回答

患者がこないためやむなく	47%
自身やスタッフの感染リスクを考慮して	63%
4月6日付事務連絡を受けて	35%
スタッフの出勤控えにより	9%
その他	9%
無回答	17%

◆診療縮小の理由で最も多かったのが「自身やスタッフへの感染リスクを考慮して」だった。十分な防護具が行き渡らない中、歯を削る際の飛沫等による感染リスクへの懸念がうかがえる。次いで「患者がこないためやむなく」が半数近く、「（緊急のない治療の延期を求める趣旨の）事務連絡を受けて」が続く。

Q3.各コロナ関連制度の利用状況について

歯科はかなり逼迫した経営状況 持続化給付金「活用予定」が4割も

	使う(予定含む)	対象外	使わない	知らない	制度を知	その他
医科歯科合計						その他回答： 医師会の融資制度 NHK受信料支払猶予 家賃補助制度(自治体独自)など
雇用調整助成金	24%	24%	20%	15%	2%	
小学校休業等対応助成金	8%	29%	23%	19%	1%	
持続化給付金	22%	31%	16%	14%	1%	
各種融資制度	28%	9%	29%	15%	1%	
5月診療報酬診療報酬前払	5%	5%	58%	11%	1%	
国税・市税猶予制度	7%	7%	49%	16%	2%	

◆各制度の活用状況は、医科歯科合計では各種融資制度(コロナ特別対応資金、福祉事業貸付事業等)を「使う(予定・検討含む)」と答えたところが28%と最も多く、次いで雇用調整助成金、持続化給付金と続いた。しかし医科歯科では傾向に乖離があり、例えば「任意月で50%以上の収入減」が要件の持続化給付金は、医科で「使う」と答えたのは17%だったが、歯科では39%と倍以上に上った。また、各種融資制度も「使う」が医科で23%だったのに対し、歯科では44%が「使う」と答えた。小学校休業等対応助成金を除くすべての制度で、医科よりも歯科の方が「使う」と答えた割合が高かった。低診療報酬下でもともと経営体力の弱い歯科において、資金繰りがかなり逼迫している状況がうかがえる。

Q5.医院経営上困っていること、意見、要望等

医科・歯科共通

感染拡大が本格化し始めた前回調査時は医科歯科ともに「減収」がもっとも意見数が多かったが、今回の調査では、衛生材料の不足、高騰(特にアルコール消毒液、医科ではガウン、フェイスシールド、非接触体温計など)を訴える声が目立った。医科ではPCR検査体制への不満の声も変わらず出されており、唾液検体での検査実施に期待を寄せる声もいくつかあった。また内科を中心に、秋冬のインフルエンザ流行時期の診療体制への懸念の声も多い。「緊急事態宣言が解除されても患者はすぐに戻ってこない」「7月には資金がショートする」「もはや心が折れた」など、諦めや疲弊の声も寄せられている。

資金繰りでは、持続化給付金の要件が厳しすぎることや各種制度の申請手続きの煩雑さへの不満の声も多く寄せられ、手続きの煩雑さや社労士への依頼費用で割に合わない、利用を断念した声も見られた。歯科の方が医科よりも資金繰りに関する不安、不満の声が多くみられた。

**【全体を通して】**

患者減、収入減が深刻化する中、物資の不足、高騰による感染対策費増加は深刻で、医業経営は厳しい状況におかれている。特に歯科はひっ迫しており、協会にも連日資金繰りの相談が寄せられ、先を見越しての閉院相談も寄せられている。いうまでもなく疾病はコロナだけではなく、第一線の診療所が持ちこたえられなければ地域住民の健康は守れない。秋冬の第2波に備えた医療提供体制を崩壊させないため、医療機関への経済支援、衛生用品等の供給体制確保は待ったなしだ。

この件に関するお問い合わせは、TEL:045-313-2111 担当事務局：(田中・園田)まで

**【第2弾】新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急アンケート（医科用）**

4月実施の標記アンケートへのご協力ありがとうございました。結果（協会HP掲載）に基づき、協会では国・県等への要請を強めています。先生方が「今」困っていることを把握し要請に反映させるため、第2弾のアンケートを実施させていただきます。ご多忙と存じますが、ご協力をお願い致します。  
**（回答が切：6月4日）**

開業形態：診療所 病院 開業地区： 市 区  
年代：（院長先生）20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代以上

**Q1.4月診療分について** 前年同期と比べご回答ください。（%はおおよそで結構です）。

- 1) 外来患者数 ①増えた ( ) % ②変わらない ③減った ( ) %  
2) 保険診療請求金額 ①増えた ( ) % ②変わらない ③減った ( ) %  
Q1.15月診療分について（見込み） 前年同期と比べご回答ください。（%はおおよそで結構です）。  
1) 外来患者数 ①増えた ( ) % ②変わらない ③減った ( ) %  
2) 保険診療請求金額 ①増えた ( ) % ②変わらない ③減った ( ) %

Q2.コロナ感染症疑いの患者の来院はありましたか。

- あった ない その他 ( )  
⇒Q2-1.「あった」と回答された先生：どのように対応されましたか（複数回答）。  
別室待機（駐車場等含む）の上診察 PPE（個人用防護具）着用で診察 症状緩和の処方をした  
診察の上、帰国者・接触者外来へ連絡した 対面診察はせず、帰国者・接触者外来へ案内  
その他 ( )

Q3.下記コロナ関連の各制度について、a～eのうちご自身に当てはまる欄ひとつに○印を付けてください。

制度の名称	a. 活用中 / 申請中 / 検討中	b. 対象ではない	c. 使わない / 必要ない	d. 制度をよく知らない	e. その他
①雇用調整助成金					
②小学校教育等対応助成金					
③持続化給付金					
④新型コロナウイルス感染症対応資金、福祉事業貸付事業などの融資制度					
⑤5月診療分診療報酬一部概算前払					
⑥国税・地方税滞り制度					
⑦その他制度 ( )					

※各制度の詳細は直近の神奈川県保険医新聞、本日付 FAX 案内及び協会 HP に掲載されています。ご参照ください。  
Q4.困っていること、ご意見・要望等がありましたら、ご記入ください。

ex. 制度支援・物品の要望、診療上の困難、PCR検査体制に関する情報やご意見など

ご協力ありがとうございました。

お問い合わせ：045-313-2111 医療運動部会宛

**FAX 返信先：045-313-2113**

**【第2弾】新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急アンケート（歯科用）**

4月実施の標記アンケートへのご協力ありがとうございました。結果（協会HP掲載）に基づき、協会では国・県等への要請を強めています。先生方が「今」困っていることを把握し要請に反映させるため、第2弾のアンケートを実施させていただきます。ご多忙と存じますが、ご協力をお願い致します。  
**（回答が切：6月4日）**

開業形態：診療所 病院 開業地区： 市 区  
年代：（院長先生）20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代以上

**Q1.4月診療分について** 前年同期と比べご回答ください。（%はおおよそで結構です）。

- 1) 外来患者数 ①増えた ( ) % ②変わらない ③減った ( ) %  
2) 保険診療請求金額 ①増えた ( ) % ②変わらない ③減った ( ) %  
Q1.15月診療分について（見込み） 前年同期と比べご回答ください。（%はおおよそで結構です）。  
1) 外来患者数 ①増えた ( ) % ②変わらない ③減った ( ) %  
2) 保険診療請求金額 ①増えた ( ) % ②変わらない ③減った ( ) %  
Q2.コロナ感染症拡大の影響で何らかの診療縮小を行いましたか（複数回答可）。

- 一定期間休診した（している） ( ) 月 日～ 月 日 休診（曜）日を増やした  
診察時間を短縮した 従業員の出勤日数を減らした 感染拡大前と変わらず診療  
その他 ( )

⇒Q2-1.診療縮小を行った理由（複数回答可）。

- 患者が来ないためやむを得なく 自らやスタッフの感染リスクを考慮して 4月6日付厚労省事務連絡（歯科医療における院内感染対策について）を受けて スタッフが出動を控えているため  
その他 ( )

Q3.下記コロナ関連の各制度について、a～eのうちご自身に当てはまる欄ひとつに○印を付けてください。

制度の名称	a. 活用中 / 申請中 / 検討中	b. 対象ではない	c. 使わない / 必要ない	d. 制度をよく知らない	e. その他
①雇用調整助成金					
②小学校教育等対応助成金					
③持続化給付金					
④新型コロナウイルス感染症対応資金、福祉事業貸付事業などの融資制度					
⑤5月診療分診療報酬一部概算前払					
⑥国税・地方税滞り制度					
⑦その他制度 ( )					

※各制度の詳細は直近の神奈川県保険医新聞、本日付 FAX 案内及び協会 HP に掲載されています。ご参照ください。  
Q4.困っていること、ご意見・要望等がありましたら、ご記入ください。

ex. 制度支援・物品の要望、診療上の困難など

ご協力ありがとうございました。

お問い合わせ：045-313-2111 医療運動部会宛

**FAX 返信先：045-313-2113**